
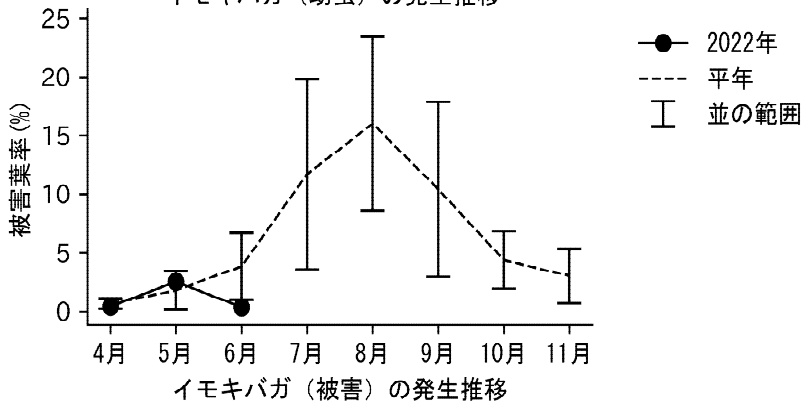
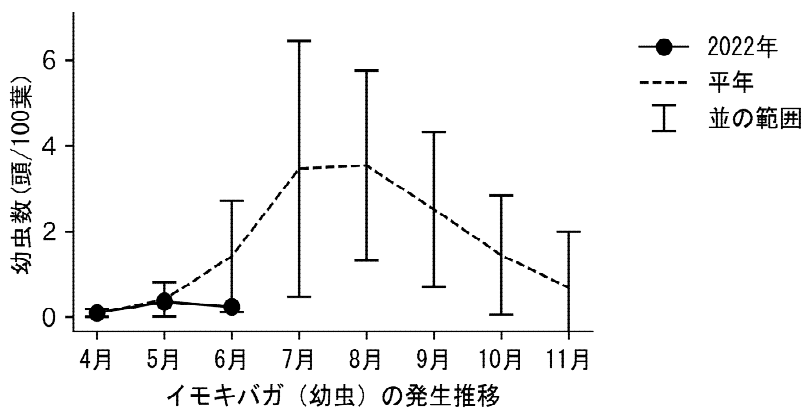


作物	カンショ	地域	沖縄群島
病害虫名	イモキバガ		
調査結果	6 月の発生量 (平年比)	並	
予報	6 月からの増減傾向	↗	
	7 月の発生量 (平年比)	並	

予報の根拠	平年の発生量の推移 (↗)
-------	---------------

調査結果



・発生ほ場率37.5% (平年 : 53.7%)

防除のポイント

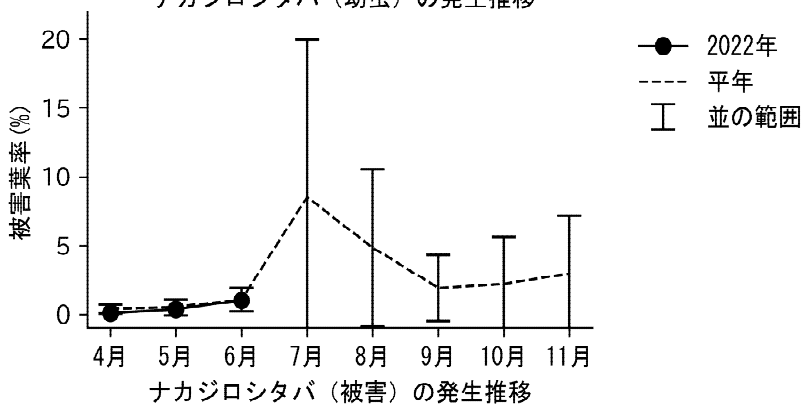
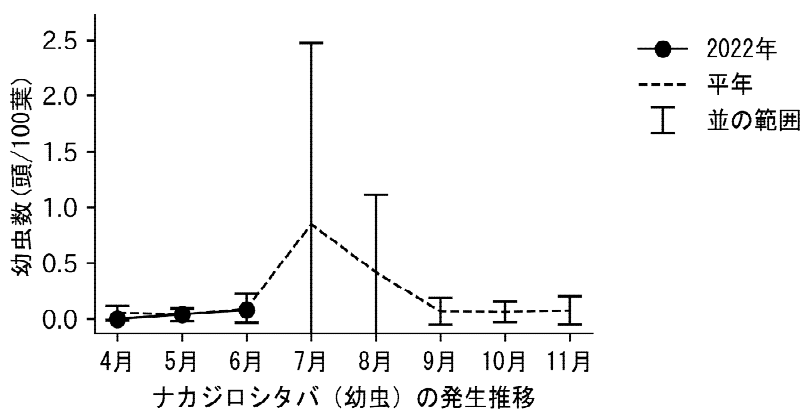
・老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので、若齢期の防除が重要である。

作物	カンショ	地域	沖縄群島
病害虫名	① ナカジロシタバ		
調査結果	6 月の発生量 (平年比)	並	
予報	6 月からの増減傾向	↗	
	7 月の発生量 (平年比)	並	

予報の根拠

平年の発生量の推移 (↗)


調査結果



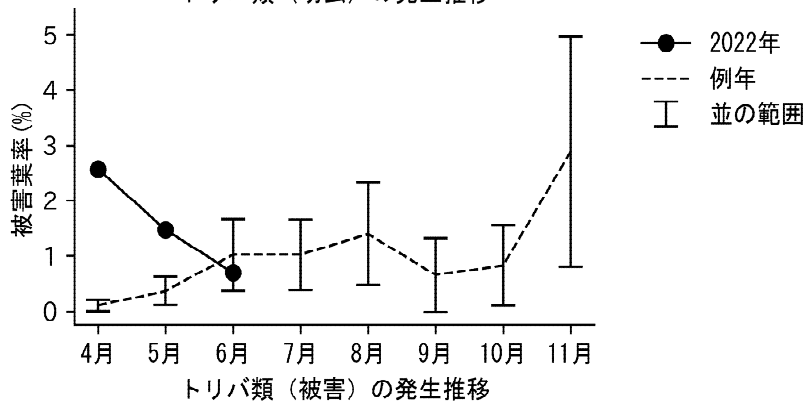
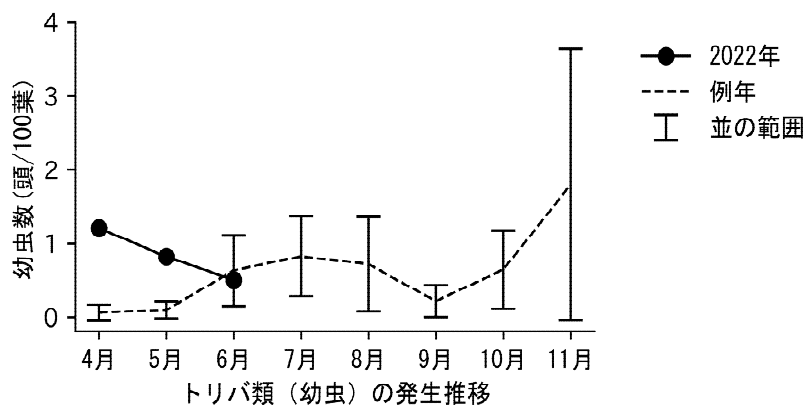
・発生ほ場率25.0% (平年 : 20.4%)

防除のポイント

・老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので、若齢期の防除が重要である。

作物	カンショ	地域	沖縄群島
病害虫名	トリバ類		
調査結果	6 月の発生量 (平年比)	並	
予報	6 月からの増減傾向	↗	
	7 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	


調査結果



・発生ほ場率75.0% (例年 : 58.3%)

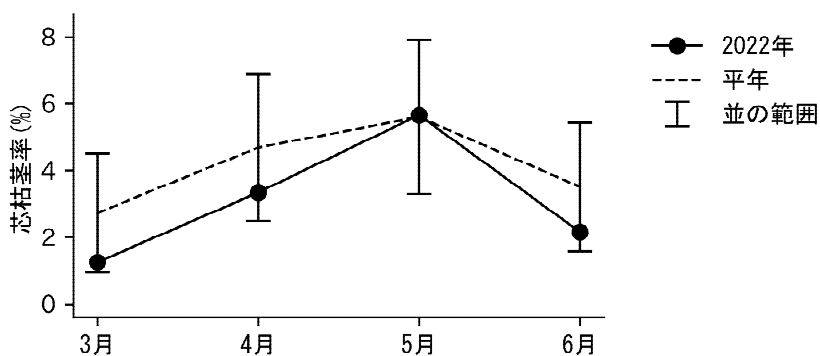
防除のポイント

発生初期の防除が有効であるので、被害葉が出はじめたら、薬剤散布する。

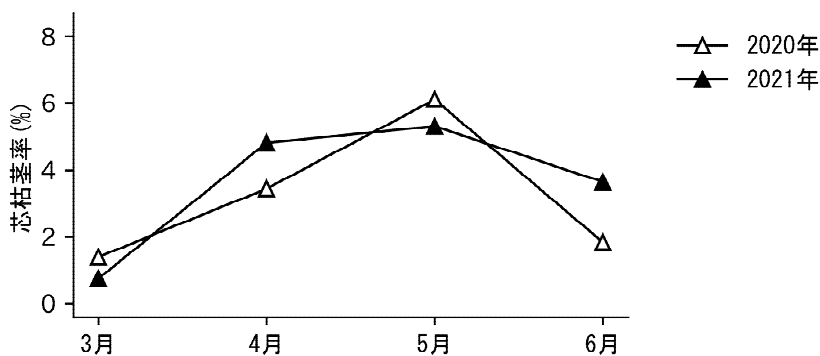
作物	さとうきび	地域	沖縄群島
病害虫名	メイチュウ類(カンシャシクイハマキ・イネヨトウ)		
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	並	
予報	4 月からの増減傾向	—	
	5 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果

今期と平年の推移




過去2年の推移



- ・ 茎内で発見したメイチュウ類のうち、優先種はカンシャシクイハマキであった。
- ・ 発生ほ場率75.0% (平年 : 86.3%)

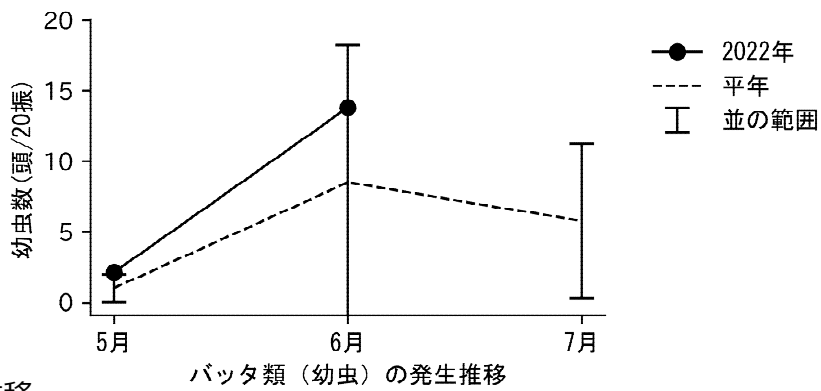
防除のポイント

- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

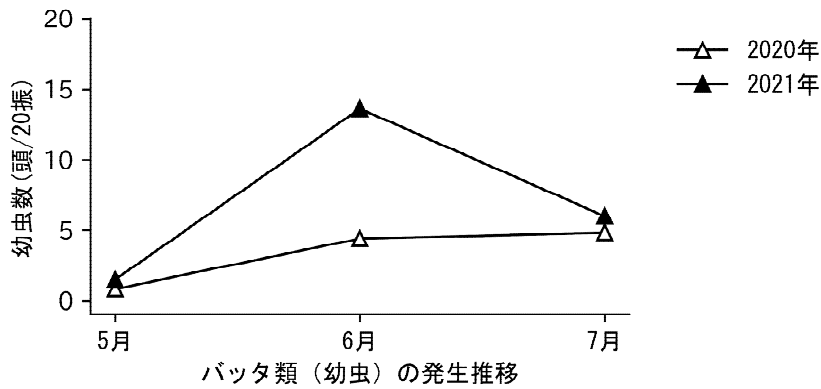
作物	さとうきび	地域	沖縄群島
病害虫名	バッタ類		
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	並	
予報	4 月からの増減傾向	↓	
	5 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)	

調査結果

今期と平年の推移




過去2年の推移



・発生ほ場率93.8% (平年 : 70.2%)

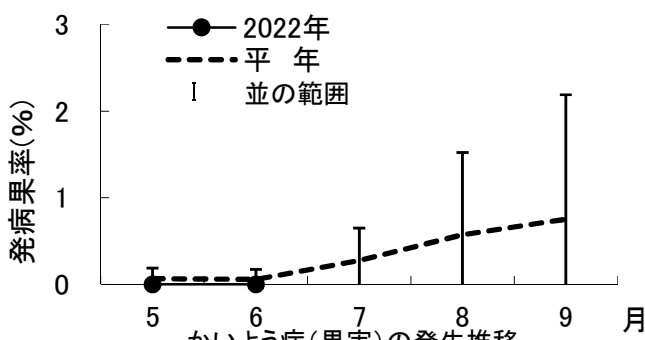
防除のポイント

- ・発生源となるほ場及び周辺のイネ科雑草の除草を徹底する。
- ・幼虫期の防除が効果的なので、5~6月にほ場周辺の見回りを行い幼虫の早期発見・防除に努める。

作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	① かいよう病		
調査結果	6 月の発生量（平年比）	並	
予報	6 月からの増減傾向	↗	
	7 月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）	

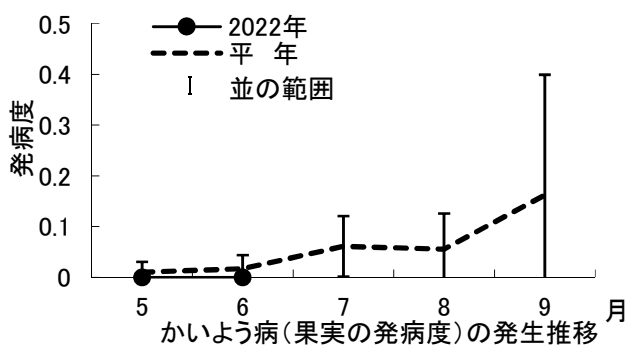
調査結果

（発病果率：今期と平年の推移）

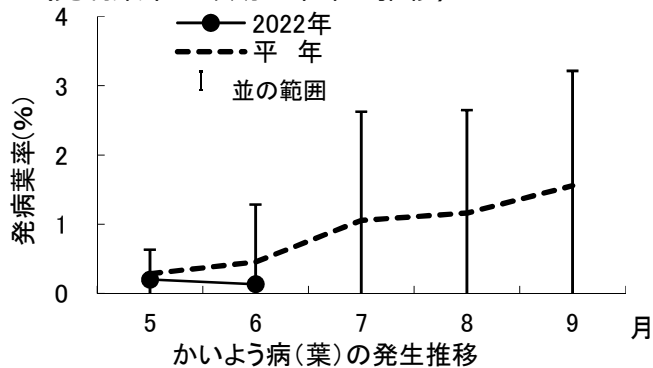


・発生ほ場率40.0%（平年23.8%）

（果実の発病度：今期と平年の推移）

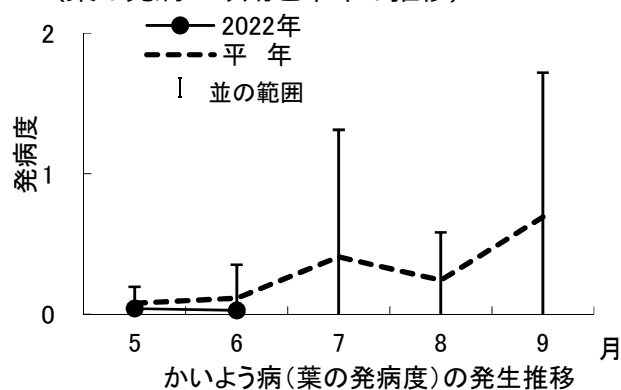


（発病葉率：今期と平年の推移）



・発生ほ場率0%（平年7.1%）

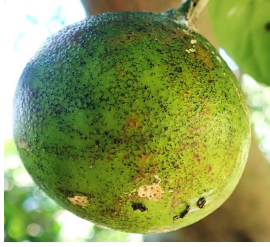
（葉の発病度：今期と平年の推移）



防除のポイント

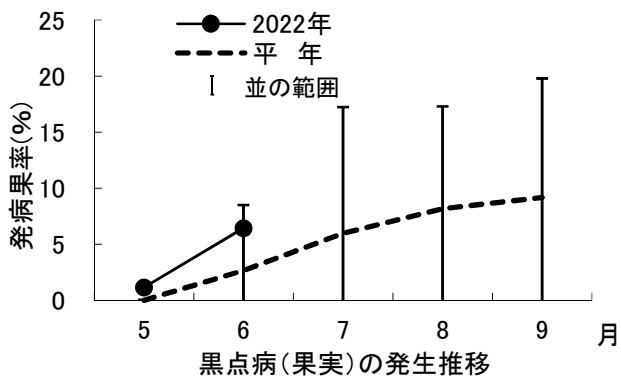
- ・本病はミカンハモグリガによる食害痕から侵入しやすい。
- ・罹病枝、罹病葉を除去し、伝染源を極力少なくする。



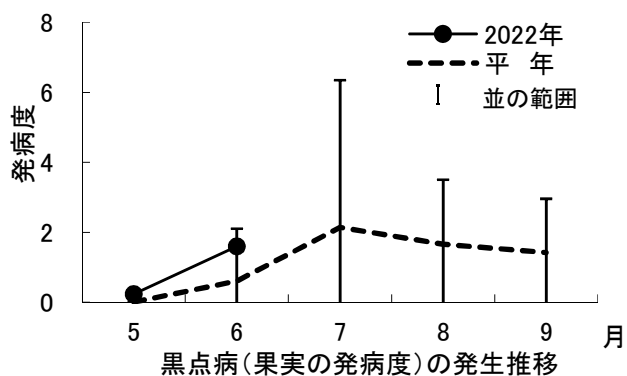
作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	② 黒点病		
調査結果	6 月の発生量（平年比）	並	
予報	6 月からの増減傾向	↗	
	7 月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）	

調査結果

（発病果率：今期と平年の推移）




（果実の発病度：今期と平年の推移）



・発生ほ場率100%（平年14.3%）

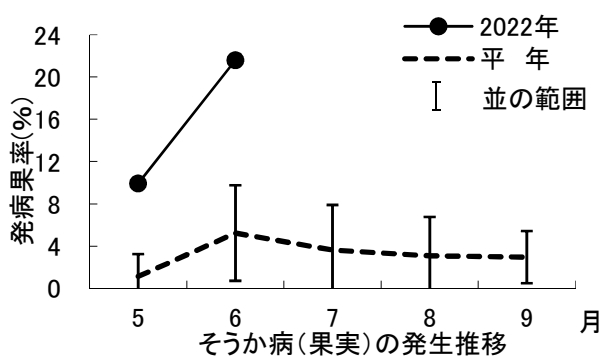
防除のポイント

- ・周辺の防風樹も含め、枯れ枝は除去する。
- ・ほ場内の通風、採光を良くするために、間伐、せん定等の管理を徹底する。

作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	③ そうか病		
調査結果	6 月の発生量（平年比）	多	
予報	6 月からの増減傾向	↓	
	7 月の発生量（平年比）	やや多	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↓） 一部ほ場で発生がみられた	

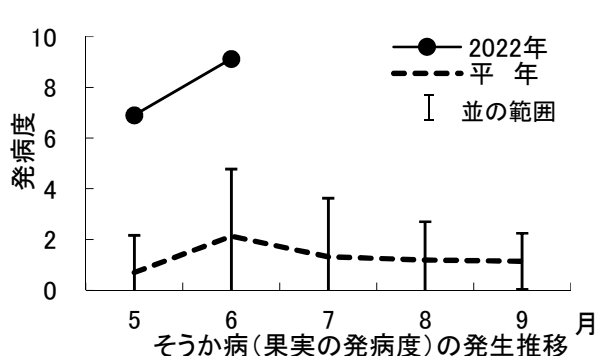
調査結果

（発病果率：今期と平年の推移）

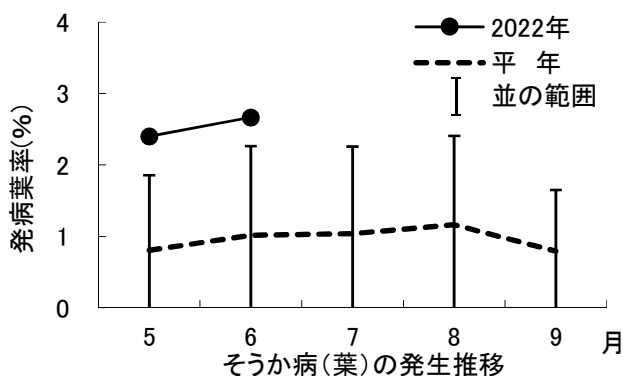


・発生ほ場率80.0%（平年40.5%）

（果実の発病度：今期と平年の推移）

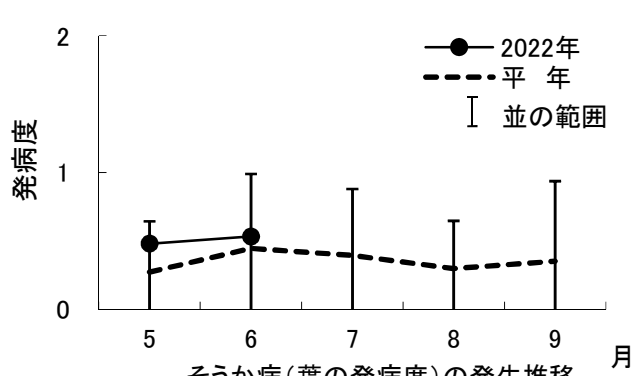


（発病葉率：今期と平年の推移）



・発生ほ場率80.0%（平年64.3%）

（葉の発病度：今期と平年の推移）




防除のポイント

- ・罹病葉・枝は伝染源になるので除去する。

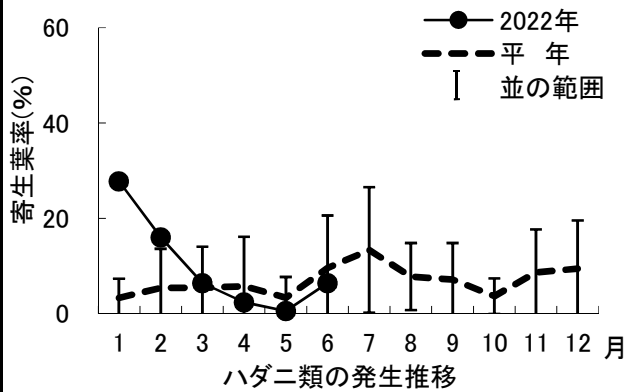
被害葉→



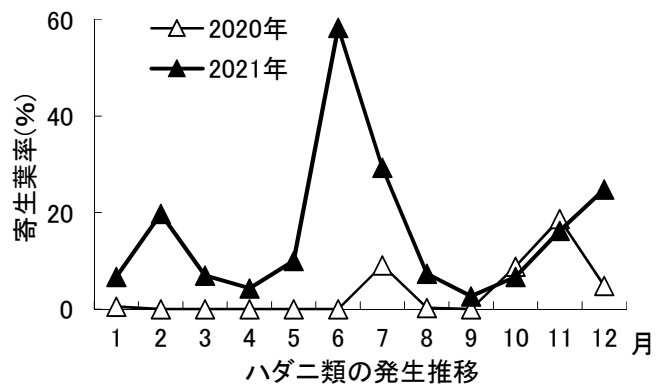
作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	④ ハダニ類		 <p>ミカンハダニ</p>
調査結果	6 月の発生量（平年比）	並	
予報	6 月からの増減傾向	↗	
	7 月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）	

調査結果

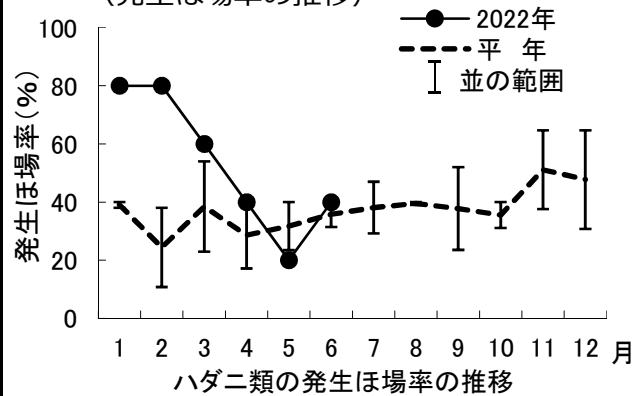
（今期と平年の推移）



（過去2年間の推移）



（発生ほ場率の推移）




防除のポイント

- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

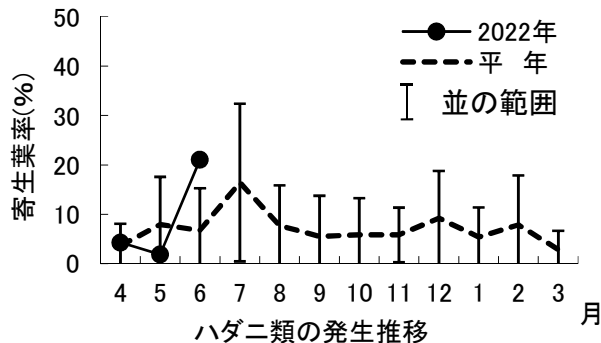


ハダニの寄生による葉のかすれ症状

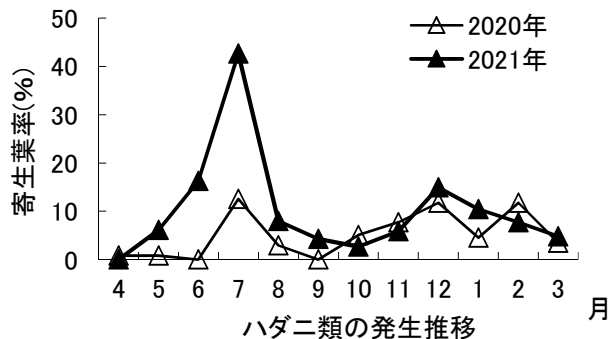
作物	かんきつ（タンカン）	地域	沖縄群島
病害虫名	① ハダニ類		
調査結果	6 月の発生量（平年比）	やや多	
予報	6 月からの増減傾向	↗	
	7 月の発生量（平年比）	やや多	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）	

調査結果

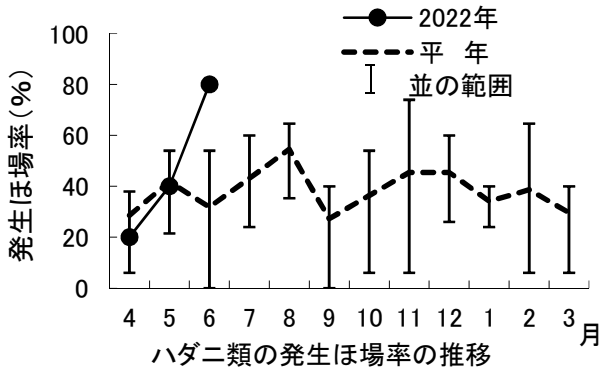
（今期と平年の推移）



（過去2年間の推移）



（発生ほ場率の推移）




防除のポイント

- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

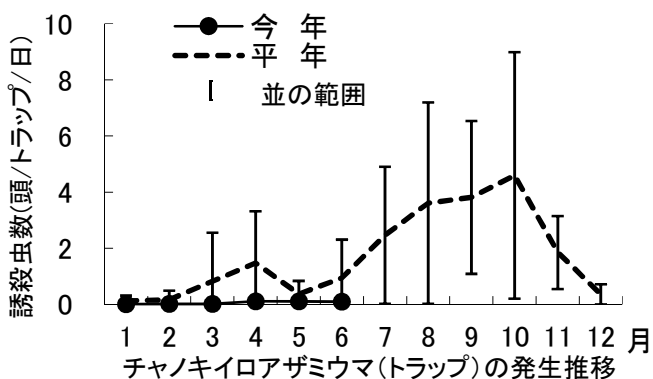


ハダニの寄生による葉のかすれ症状

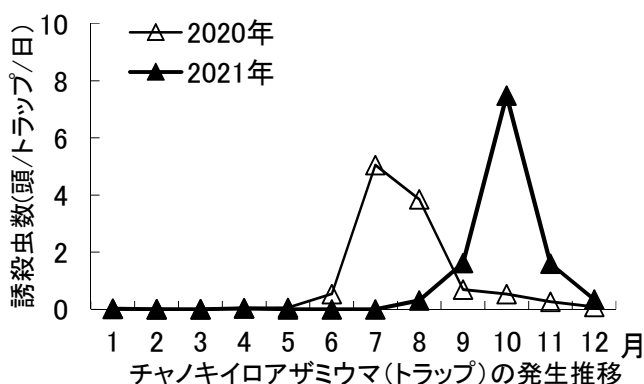
作物	マンゴー	地域	沖縄群島
病害虫名	チャノキイロアザミウマ		
調査結果	6 月の発生量 (平年比)	並	
予報	6 月からの増減傾向	—	
		7 月の発生量 (平年比)	—
予報の根拠			

調査結果

トラップ調査 (今期と平年の推移)



(過去2年間の推移)




・発生施設率：50.0% (平年値：76.3%)

防除のポイント

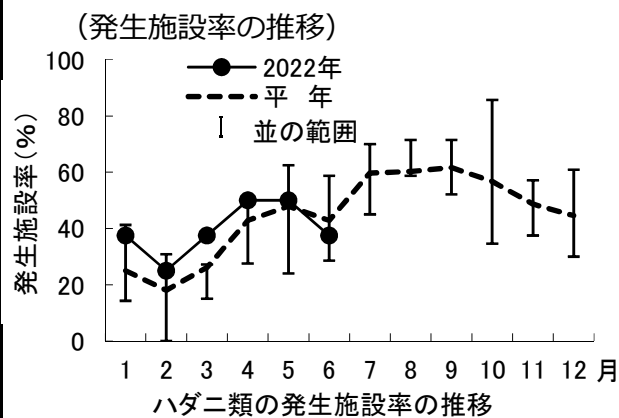
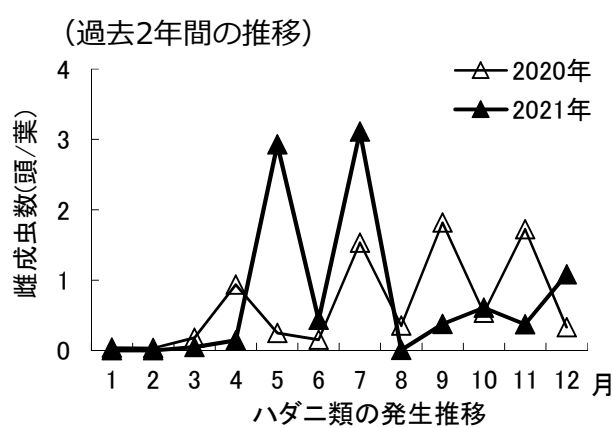
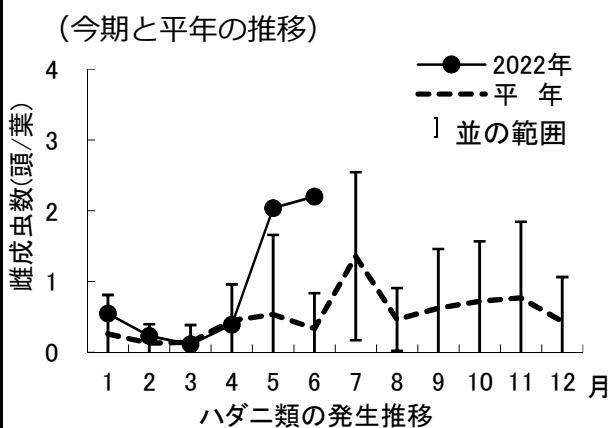
- ・ 不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
- ・ コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・ 収穫期に発生が多かった施設では、せん定終了後に薬剤による防除を行う。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ナガエコミカンソウ

作物	マンゴー	地域	沖縄群島
病害虫名	① ハダニ類		 <p>シュレイツメハダニ</p>
調査結果	6 月の発生量 (平年比)	多	
予報	6 月からの増減傾向	↗	
		7 月の発生量 (平年比)	やや多
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗) 一部ほ場で発生が見られた。	

調査結果



発生種: シュレイツメハダニ、マンゴーツメハダニ

防除のポイント

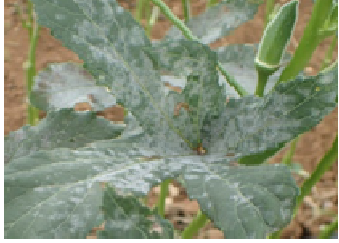
- ・ 収穫終了後の防除を徹底する。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ハダニの寄生による葉のかすれ症状

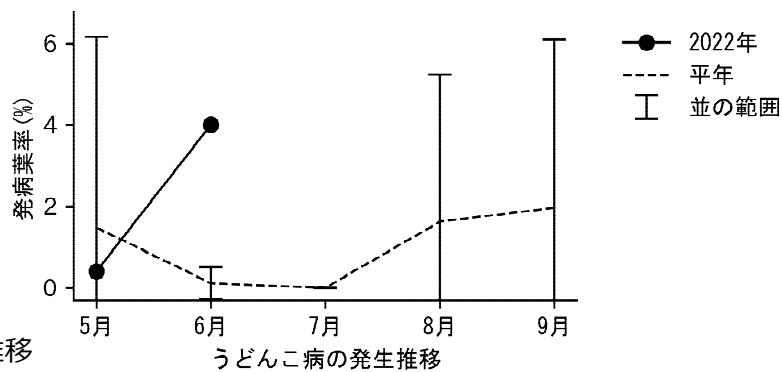


マンゴーツメハダニ

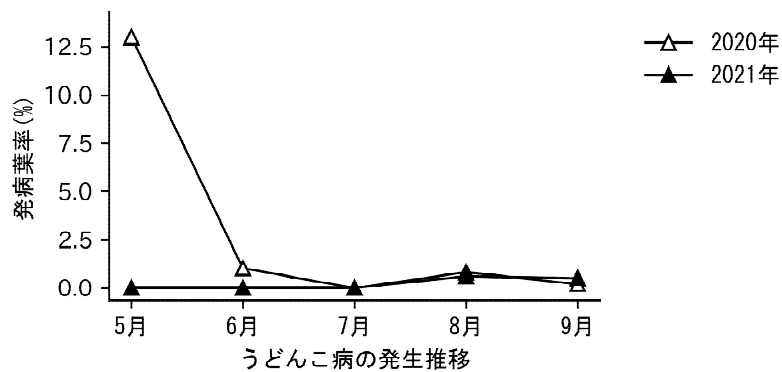
作物	オクラ	地域	沖縄群島
病害虫名	① うどんこ病		
調査結果	6 月の発生量 (平年比)	並	
予 報	6 月からの増減傾向	→	
	7 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

今期と平年の推移




過去2年の推移



- ・一部ほ場で多発
- ・発生ほ場率20.0% (平年：2.2%)

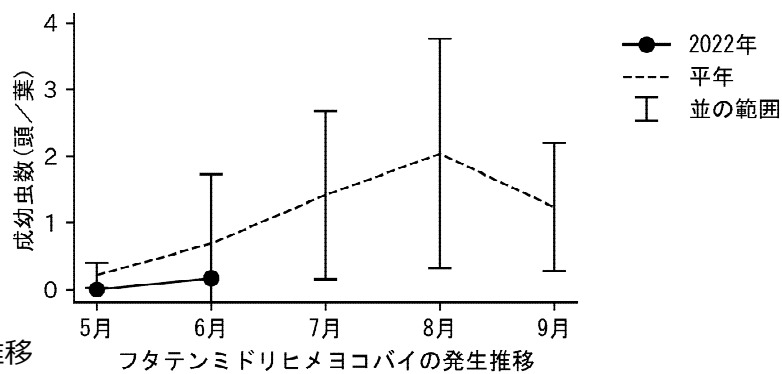
防除のポイント

- ・下位の罹病葉や残葉は速やかに除去し、風通しを良くする。
- ・窒素過多にならないようにする。
- ・草勢を維持し、適切な施肥管理を行う。

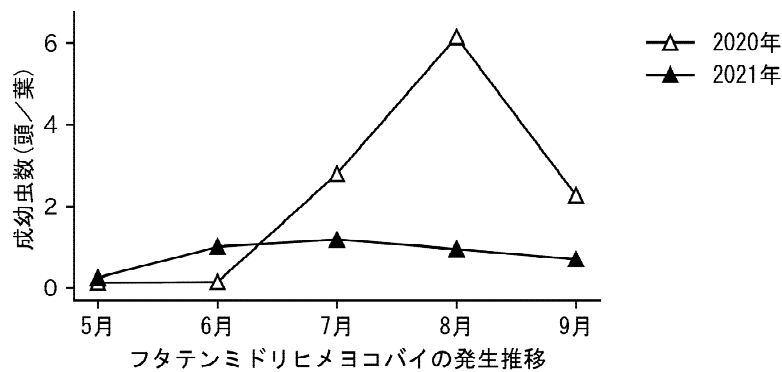
作物	オクラ	地域	沖縄群島
病害虫名	② フタテンミドリヒメヨコバイ		
調査結果	6 月の発生量 (平年比)	並	
予報	6 月からの増減傾向	↗	
	7 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

今期と平年の推移



過去2年の推移




・発生ほ場率80.0% (平年 : 62.2%)

防除のポイント

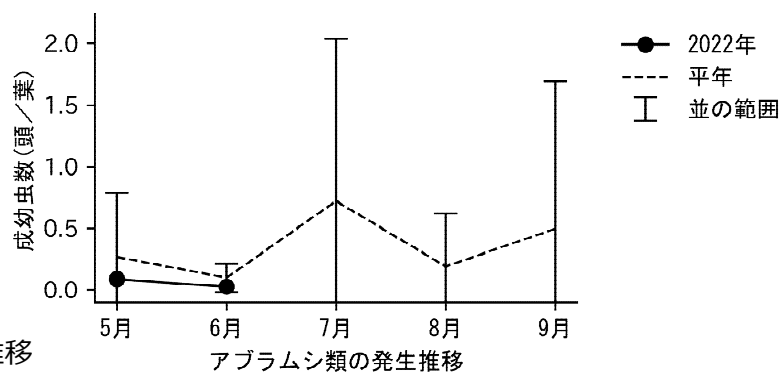
・多発すると被害葉は黄変萎縮するので、葉裏を観察し、早期発見・防除に努める。



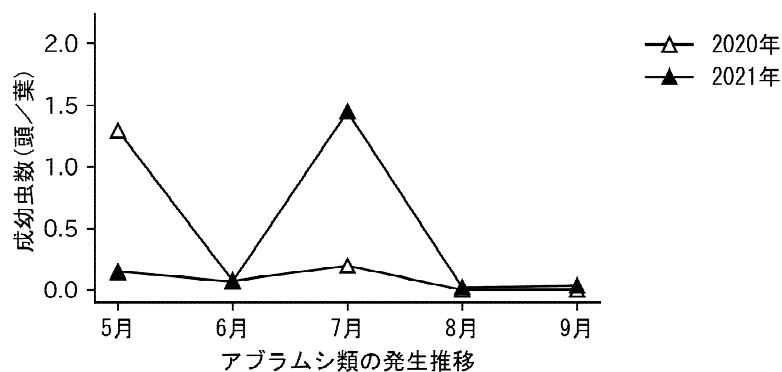
作物	オクラ	地域	沖縄群島
病害虫名	③ アブラムシ類		
調査結果	6 月の発生量 (平年比)	並	
予報	6 月からの増減傾向	↗	
	7 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

今期と平年の推移




過去2年の推移



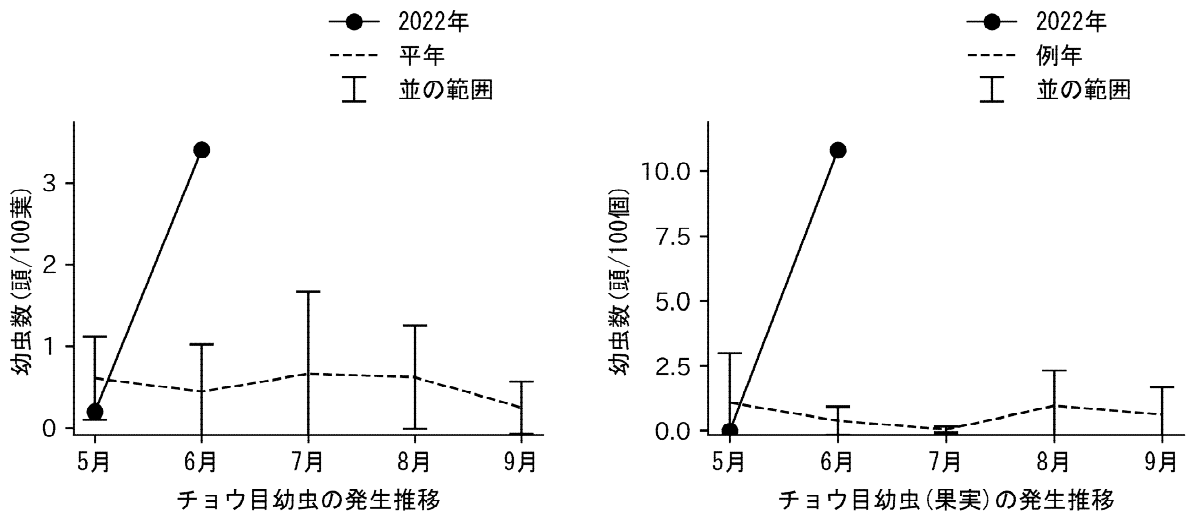
・発生ほ場率60.0% (平年 : 31.1%)

防除のポイント

- ・多発すると新葉の萎縮や芯止まりにより生長が阻害されるため、葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・発生源となるほ場内外の雑草を除去する。

作物	オクラ	地域	沖縄群島
病害虫名	④ チョウ目幼虫		
調査結果	6 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	6 月からの増減傾向	↗	
	7 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果



- ・一部ほ場で多発
- ・発生ほ場率：葉100% (平年：17.8%)、果実40.0% (平年15.0%)
- ・発生種：葉 (ハスモンヨトウ、ワタアカキリバ)、果実 (ハスモンヨトウ)

防除のポイント

- ・発生密度が低い場合は、捕殺が有効である。
- ・葉裏の幼虫に対しては薬剤効果が低減するので、若齢幼虫期のかすり状被害を発見したら、速やかに薬剤を散布する。

